

「20年間、ここにあるもの」

なぜ、私も含め、いろんな人がコクレオの森に関わっているのか、時々考えることがあります。「子どもが通っているから」「こんな学校が広がってほしいから」「いい活動だと思うから」一人ひとりの中にその答えはあるけれども、どうしてそう思うのか、表面的な答えのその奥に、それぞれが大切に握りしめている願いや思いがあると思うようになりました。

この20年間、市民が学校を創るという挑戦を続けながら、「自分たちは、なぜ何のためにどんな学校を創り続けるのか」を問い続けてきました。時間がかかりましたが、今年度のビジョンミーティングで、「私を生きる人が増える」ということが、コクレオの森の存在目的で、「自分も人も大切に作る」という価値を、「信頼・対等・対話」というあり方で提供し続けていく団体だということに、ようやくたどり着きました。

20年前、大阪に新しい学校を創る会に集まってきた立ち上げメンバーは、こんな思いを持っていました。「大学生が無気力なのは問題だ」「途上国の子と比べて、日本の子の目に輝きがない」「子どもが不登校だった」。当時は、言語化はできていませんでしたが、それぞれのメンバーの心の奥にも、「私を生きる」とへの強い願いがあったことでしょう。

20年が経ち、学校の場所も名前も変わり、法人名も変わりました。それでも、変わらずあるものは、私たちがここに集っている一番の理由として、それぞれが心の奥に持ち続けている願いなのだと思います。(藤田 美保)



20周年記念パーティーの様子



コクレオてらす



写真: 周年パーティーの思い出

インフォメーション

おとなの

もりラボ企画「おとな哲学カフェ」

聴きあい尊重し合う、あたたかな場をまずは大人から経験してみませんか。

忙しい毎日。

たまには立ち止まって対話をゆっくり味わえたらと思います。

2/10 「人はなぜ争うのか」

3/9 「未定」

時間：13:30～15:30

場所：箕面こどもの森学園

(リアル会場のみ/オンラインはありません)

定員：15名

料金：一般/1000円

NPO法人コクレオの森正会員/800円

学生600円(※学割の対象は29歳以下とします)

こそたての

子育てカフェ&子育てBAR こどもの森のハッピーアドバイス

「シーズン3*わたしの自己肯定感」オンライン開催

親に自己肯定感がしっかりとあると、子どもの自己肯定感は自然と育れます。まず親であるわたし自身が幸せになりましょう。

子育てカフェ(昼):2/14(水)、3/6(水) 10:00-12:00

子育てBAR(夜):2/22(木)、3/14(木) 20:00-22:00

第2回「凸凹なわたしにハナマル」

第3回「自分が愛おしくなる魔法の手紙」

定員:子育てカフェ&子育てBAR/それぞれ20名

参加費:2000円/各回

3/20(水祝)10:00より、リアル子育てカフェも開催!

場所は箕面こどもの森学園。詳細は近日HPにてアップします。



発行日:2024年1月26日

発行者:認定NPO法人 コクレオの森



〒562-0032大阪府箕面市小野原西6-15-31

TEL&FAX:072-735-7676

メール:info@cokreono-mori.com

URL:https://cokreono-mori.com/

《編集後記》

2024年になりました。コクレオてらす 12号です。毎回編集チームで内容を考えていますが、こどもの森以外の他の森の事業の活動もどんどん活発になってきて、載せたいことがたくさんあっても誌面のスペース上、載せきれず、うれしい悲鳴をあげています。情報発信の形も多様化してきているので、どんな媒体が最適で伝わりやすいのか、色々探っていきたいと思います。(藤丸 浩志)

「こどもまんなか社会」って何？

芳仲 猛

私たちのそもそもの始まりは市民による自由な教育についての学習会でした。そして理想の学校を作ろうと二階建ての民家を舞台に第一歩を踏み出しました。

それから20年、フレネ教育を基本に様々な学習、試行錯誤を重ねてきました。その結果、子どもたちの自主性、意欲、自由な表現を育み、選択権を尊重し、多数決をせず話し合いで物事を決めるなど、こどもの森独自のスタイルを築き上げ、それらが少しずつ社会に認知されてきました。そして学校を中心にした自由で開かれた共同体を目指し、こどもの森からコクレオの森へと活動を広げました。だれもが自由で幸福、自分のままで生きることのできる社会の実現が私たちの最終的な目標となりました。

一方、日本の教育学や教育行政も社会にとって最良の教育を目指して営まれてきました。日本の厳しい規範に基づいた集団主義的教育は大きな成果をあげ、高度経済成長を支え物質的豊かさを私たちにもたらしました。そしてこの時の集

団主義的教育にうまく適応して育った子どもたちがおとなになって、今の日本の教育に携わっているのです。日本の教育がなかなか変わらないのはこの時の成功体験に固執しているからではないでしょうか。

しかし時代は変わりました。指示されたことを正確にこなす能力だけではこの変化の激しい社会に適応できません。自分の頭で考え、自ら行動を起こす、今必要なのはそのような力です。こども基本法ができて「こどもまんなか社会」ということが盛んに言われていますが、おとなが考えるのではなく、子ども自身が考える「こどもまんなか社会」を探求することが必要です。私たちおとながするべきことは、子どもたちに正しい情報を提供し、対等な立場で考え、見守り、励ますことです。そして選択するのは子どもたち一人ひとりなのです。

ところで、「こどもまんなか社会」は子どもだけでなく、本当は私たちおとなも一人ひとりがまんなかでなくてはならないと思うのですがいかがでしょうか。

こどもの森



学びはどうやったら生まれるのだろう

2023年の暮れ、夕方のニュース番組でこどもの森の特集が放送されました。箕面こどもの森学園が大事にしていること、知ってほしいことが15分という時間の中にギュッと凝縮されていて、多くの方に、教育とは、学校とは、子どもの権利とは、ということを考えていただける機会になったのではないかと思います。そして、関わっている私たち自身にとっても、これからの自分たちの進んでいく方向性や、あり方を俯瞰して捉え、自分たちの足元を見つめる機会にもなったのではと感じています。

放送では、主に小学部の様子を取り上げられていましたが、箕面こどもの森学園には中学部もあり、小学部と同様にがんばっています！そのこどもの森中学部、昨年の11月には、韓国へ10日間の海外研修旅行に行ってきました。3つの韓国のオルタナティブスクールを訪問し、現地の中学生や高校生と交流をしました。それぞれの学校との交流を終えた後に、こどもの森の中学生から「一般の公立などの学校にも行ってみたいかった」という言葉を聞きました。自分たちと似たような学校の人たちとの交流はとても面白くはあったけれど、もっと違う学びをしている人とも話してみないと、その違いや良さも見てこない、ということを感じたようです。

中学部の海外研修旅行は、小学部のお泊り会や修学旅行と違い、子どもたちのしたい！という提案から始まるのではなく、行き先や内容など、スタッフの発案からスタートしています。そういった意味では、いくら海外での貴重な経験であっても、研修旅行はなかなか学びに繋がりにくいプログラムなのである…とすることがあります。どんな風にしたら、子どもたちの興味関心とも繋がり、そこでの経験から、さらに学びが深まっていけるのか。研修旅行を通して、自分の学び方を考え、生き方を見つけていける、そんなプログラムとはどんなものなのか。そんなことを考えながら、また今年も日々が足早に過ぎていきます…。(藤丸 浩志)

おとなの森



Manabeeプログラムを通じて

皆さんこんにちは。私はこどもの森に通う小学生の父親で伸幸といいます。今回、Manabeeプログラム(7期)に参加させていただきましたので、そのプログラムの過程で感じたことや考えたことなどをお伝えします。そもそも、なぜ私がManabeeプログラムを受講してみようと思ったのかと言いますと、息子が受ける教育の考え方と私が小学校・中学校時代に受けた教育の考え方があまりにも違い過ぎて、子どもに接する時に無意識に昔の価値観を押し付けてしまわないかと不安に思っていたこと。時代に合わせて私自身の考え方も変えていかなければならぬだろうと考えたことがその理由です。

Manabeeプログラムにはオンライン交流会や合宿など、多くの参加者と一緒に学ぶ機会がありますが、その中で私が特に伝えたいことは「共育プログラム」についてです。この共育プログラムを通じて、メンバーと話し合うにつれて、チームとして子どもたちに伝えたいことが明確になっていったのですが、話し合いに向けての準備をするうちに「私個人としては何をどうやって子どもたちに伝えていきたい

トピック!

「お化けは好き?嫌い?」

空前の「お化けブーム」の低学年。図書館ではお化けの本を借りて、プロジェクトではお化けレストランがオープンし、お泊り会では本格的なお化け屋敷を考える…こんな風にお化けにまつわるあれやこれやをとことん楽しんでいます。小指のスープや目玉ハンバーグ、心臓のソテーなどなんともおどろおどろしいメニューを工作し、店員さんも貞子や血を流したお化け。暗闇の中で次々とストーリーが展開されていく本格的なお化け屋敷に、思わずスタッフも震えました。かと思えば、低学年集会では「図書館のお化けの本が怖い」という議題が出され、どうやらお化けが苦手な人が怖い思いをしなくてすむかをみんなで真剣に考えたりもしました。この話は、「ここではお化けの本は読まない」という場所を新たに作り、みんなが安心して自分の好きな本を読むことができるようになりました。

さて、次はどんなブームがやってくるのでしょうか。今後の低学年の動きに乞うご期待! (山本 希鈴)



「広かれ、多様な学び」

不登校児童・生徒数が過去最高になったことがニュースになったり、東近江市長の「フリースクールは国家の根幹を崩す」発言が批判を浴びたりしたせいか、2023年は「多様な学び」への関心が高まった一年だったように思います。箕面こどもの森学園にも夏から冬にかけて複数のTV局が取材に入り、いくつかの番組が放送されました。わが家の上の子はこどもの森学園へ通っていますが、下の子が在籍しているフリースクールにもTV局の取材が相継いだようです。

いわゆる「一条校」ではない学校に通うということは、子どもにとっても冒険ですが、家族や籍を置いている公立学校の先生方にとっても冒険づくしだと思います。「普通」のやり方とは違う学びについて何度も話し合う必要があるし、たくさんの「はじめて」を乗り越えなければなりません。でも、そうやってひとつひとつ学ぶことの意義を確かめるプロセスもまた「教育」として欠かせないピースですよ。(菅原 慶乃)

Manabeeプログラム…
コクレオのエッセンスを学ぶ大人向けの講座

保護者より



こそだての森



里山スクール『風』～自分軸の育ち方～

里山スクールの午後は、自分の好きなものを作るアトリエの時間です。木工、工作、料理などの環境で「もの作り」という自己表現をしたり、いろんな素材に触れたり、友達の模倣をしたりしながら、自分の好きなことと出合う時間でもあります。

「ねえ、もの作りでうまくできない時、誰かにお願いしたいけど…ただじゃない方がいいかなあ〜。」一人の一言が事の始まりでした。じゃあ、風の通貨を作ってみなで使おうと別の人が言い出し、それは面白そうだと『風銀行』が発足しました。紙幣を作り、ハンコを作って押していきます。でも、なかなか流通が起りません。そこで、里山センターの近くで活動している森のようちえん「きららの森のいえ」の人たちに、この風通貨を使ってマルシェを開催してみないかと提案することに…。きららの人たちは、ウッドデッキで一緒に過ごしたりしていたので、早速実行委員が立ち上がり、段取りや売り物の用意など、計画がどんどん進んでいきました。「風&きららマルシェ」当日は、クラフトショップ、ゲームコーナー、フリーマーケット、紙芝居などの多様なお店が並び、小さい人に優しく声を掛けている『風』の人の姿と、風通貨を握りしめて、はずかしそうにお店で買い物をしている小さい人の姿がとても印象的でした。

子どものつぶやきに耳を傾け、それをどう展開していくのか、あるいはじっと見守るのか…自分で考えたり行動したりできる環境がとても大切だと考えています。風が活動する黒川には、変化する自然と守られてきた暮らしがあり、「好き」に出合う要素がたくさんあります。山、川、森、田畑、生き物、心地よい風…豊かな自然の元でエネルギーを蓄えると同時に、自分たちには素敵なものを生み出す力があるという、確かな実感を得ることによって、自分軸を太くしていくのではないのでしょうか。これからの風みんなの展開も楽しみにしています。(井上 香純)



のか」についても明らかになっていきました。プログラム受講前に不安に思っていた一方的な価値観の押し付けではなく、料理を作る時に考えるような「栄養のある食材をどう調理したら美味しく喜んで食べてもらえるか」という感覚です。そして、対話を通じて、子どもの思いを汲み取り、個々の感性や理解度に合ったやり方を取るのであれば、押し付けるという感じにはならないのではないかとこの思いに至りました。また、共育プログラムと一緒に作るメンバーの一人が、公立小学校をより良い教育の場にしようとする活動をしていて、私もその活動に参加してみました。我々以外にも同じような考えで社会に働きかける仲間がいることを知り、意見交換をする中でより広い視野で教育を考えることができました。

このように、Manabeeプログラムを通じて、教育について自分なりの指針のようなものを持つたように思いますし、これからも引き続き子どもたちにとって同じ目線で考えたり悩んだりできる伴走者であればと思います。この度は多くの学びの機会をいただき、ありがとうございました。(田中 伸幸)

ミライの森



『ふるさとのぬくもりを感じた黒川里山マルシェ』

夫婦で音楽活動している《Ripple(リプル)》と申します。今年の4月から息子が里山スクール『風』に参加しているご縁から「黒川里山マルシェ」の野外ステージにて音楽出演させていただきました。

『風』の活動フィールドでもある場所で、息子がドラムで加わりました。たくさんの人たちの前で子どもたちの大きな声援を受けながらの演奏が息子の集中力とやる気へ繋がったことを、そばにいて感じました。自然豊かな大好きな場所にて家族3人で演奏できたことはとても嬉しく貴重な体験となりました。また演目の最後に、その日その場に集われていた皆さまと、黒川という地域を大切に守り続けてこられた地元の方々へ想いを馳せ、目の前に広がる山々を眺めながら“ふるさと”を演奏させていただきました。たくさんいのちが紡がれ、今ここに在れることへの感謝の気持ちが自然と溢れてきました。

たくさんの方たちの思い出が詰まっている今は廃校となった黒川小学校の趣深い校舎にて、地元の方が作られた食材のお店や、様々な地域からの飲食や雑貨の店、ヨガや生き物探し、雑草探しなどのワークショップなどが行われ、マルシェの一日はとても賑わいました。老若男女、いろんな世代の方が300人程集まり、たくさんの人たちの笑い声や笑顔あふれる素敵な風景が、そこにありました。

地域の方たちの想い、守られ続けてきた豊かな大地、自然への畏敬の念を大切にしつつ、黒川という地に何かのご縁があってこうして関わらせていただけた人たちの想いが重なって、様々な形でいのちが巡りゆく喜びがこの地から広がってほしいなと感じました。この地で奏でさせていただけたことに感謝いたします。ありがとうございました。(Ripple*吉田 志歩)

里山スクール『風』…
川西市黒川里山センターで平日に行っている、小学生向けの居場所

初めまして！小学部から中学部に入った、中学1年生の小林麟太郎です。今回は、研修旅行で美味しかった韓国料理を担当しました。趣味は将棋やデュエマ（トレーディングカードゲーム）で、最近1人で日帰り旅行に行くのにハマっています。今回の冬休みも有馬温泉に行ってきました。これからよろしくお祈いします！



*彼は締切に間に合わなかった
ので、この部分はカットしていま
す。次回で自己紹介するかも...？

研修旅行に行ってきました！！

私たちは昨年の10月31日から11月9日まで海外研修旅行として韓国に行っていました。そこで、韓国のことを少しだけ紹介しようと思います。

正式名称：大韓民国
人口：5156万人（2023年時点）
面積：10万km²（日本の約4分の1）

首都ソウル特別市に人口が集中しており、その数およそ939万人（2023年時点）地方に人がおらず、一極化が進んでいる。実際に私たちが行った時もソウルは人だらけだったが、チェチョンという割と田舎のところには本当に人が少なかった。



美味しかった韓国料理 小林麟太郎

カル（칼）は包丁、ククス（국수）は麺類を意味し、小麦粉に卵をこねた生地を包丁で切って作ることから名づけられました。うどんに似ていますが、カルククスはスープで直接ゆでるため、とろみがつきま
す。具材は出汁をとる際に使った鶏肉やアサリ、刻みのりや椎茸を乗せることが多いです。



プルコギは宮廷料理であるノビアニから派生した
ものです。ノビアニは味付けして炭火で焼いたもの
を皿に盛りつけるスタイルですが、プルコギは目の
前で焼き上げる（煮る）方法です。



1950年代以降焼きあがる時間を短縮させ、噛み応えのある肉を薄く切って販売することでプルコギがはやり始めました。



美味しかった韓国料理コーナーに続いて、次は「韓国研修クイズコーナー」です！！

Q1. 韓国は「たい焼き」ではなく「〇〇焼き」とわれています。
次のうちどれでしょう！

- 1.フナ 2.アジ 3.アユ

Q2. 中学部が乗った飛行機の航空会社は、次のうちどれでしょう！

- 1.ANA航空 2.アジアナ航空 3.ベトジェット航空

Q3. 今回の海外研修では、三か所もの学校と交流をしたのですが、二日間にわたり交流を行った学校は、次のうちどれでしょう！

1. ミンドウルレスクール 2. ガンジースクール 3. ソンミサンスクール

韓国研修クイズコーナーの答え Q1. 1番 Q2. 3番 Q3. 2番

Memories of the travel



Vol.7 新メンバー加入と韓国研修旅行編！！

INSANIS

Vol.6 から1号分空いて、久々のインサニスです！

今回は、新しいメンバーの自己紹介と韓国研修旅行に関する記事の2つです。

1学期は時間がなくてできなくて、2学期も時間はないのですが頑張ってやってみました。

締め切り破りの主犯格の先代編集長が卒業したにも関わらず、今回も締め切りはほぼ守られていないのでもっと計画的にやらなくちゃと思いつつ、期限ギリギリを攻めている編集担当です。

初めまして、中学二年生のななみです！前から記事を書いてみたくて入りました。最近、KING GNU というバンドが好きで、1月には家族で LIVE に行く予定があります。グッズも買ったのですごく楽しみです！いろんな音楽を聴くので学校で見かけたときは、話しかけてください。今回の記事では、韓国研修クイズコーナーを担当しています。頑張ってるので是非楽しんでください！！



ジャズーリもなです！！
最近 USJ に通い詰めることが
唯一の楽しみとなっています！！
どうぞよろしくお願いします！！！！

一年生の郷間ききです。
小学部でコードモテラスを制作しており、
中学部でも同じような活動をしたと思い
今回加入させていただきました。

私はレイアウトするのが好きなので
デザインを担当しています。

可愛くできたと思うのでイラストなど
にも注目して頂けると嬉しいです！

